



ふくだ
Fukuda

滑川町立福田小学校 学校だより
春休み号 令和 5年3月24日

電話 0493-56-2651 FAX 0493-56-2643

校長 上野 修

良さを磨いて未来を切り拓け！ ～卒業式～

皆さんとの出会いは、2年前の4月でした。歩いて登校する皆さんを迎えに行くと、皆さんは着任したばかりの私に福田小学校の校歌を歌って聞かせてくれましたね。

あれから2年、ずっと皆さんの頑張りを見てきました。

5年生の時、教室に、皆さん一人一人のよさが紹介されていました。「束になって伸びる」というタイトルでしたね。皆さんはお互いのよいところを認めあい、切磋琢磨して「群れる」のではなく、集団としての力をつけていきました。

そして、最高学年となった本年度・・・皆さんは、随所にリーダーシップを発揮しました。しかも、行事ごとに場面ごとにリーダーは次々に入れ替わりました。見事なメンバーシップでした。秋の「全校遠足」・・・当日はあいにくの雨で、森林公園に行くことができず、校内での縦割り活動でした。皆さんは腐ることなく下級生をリードし、楽しい時間を演出してくれました。その姿に皆さんの真骨頂を見た思いがしました。

そんな皆さんだから、コロナ禍で様々な制約がある中でもモリモリ！感動の運動会、最高の思い出となった修学旅行を創り上げることができたのだと思います。

この福田小学校からこんなにも立派な皆さんを送り出すことができることを、私も、先生方もとて誇らしく思っています。

この2年、私は、お話タイムや行事などで、考え方や生き方などいろいろとお話ししてきました。今日がいよいよ最後となりました。

お話は、「皆さんが今、持っている宝物を磨きましょう」ということです。皆さん一人一人の命の袋の中には、いろいろな宝物が入っています。その中の、今日は、3つの宝物についてお話します。

1つ目は、「受け入れる力」です。

皆さんは、大変素直な心を持っていました。皆さんは、先生やお家の人の指導や助言に対して「まずは聞く」の姿勢を持っていました。一見自分にとって都合の悪い内容でも、不満顔をせずに、一旦は引き受けることができましたね。一旦引き受けるとは「中腰の姿勢で耐えるような作業」です。苦痛を伴うものですが、一旦引き受け一旦立ち止まってよく考え、よく吟味して受け入れるべきものは受け入れることができました。そのことで、大切な情報や考え方を取り逃がすことがありませんでした。いわば耳と目と心を傾けて聞く「傾聴の力」と言えるでしょう。この能力は、とても大切な宝物だと思うのです。正しい情報や有益な考え方は、人生の道しるべだからです。

ただし、気をつけてください。現代は高度情報通信社会です。皆さんは5年生の国語の時間、下村健一さんの「想像力のスイッチを入れよう」を学びましたね。「嘘は、向こうから巧妙にやってきますが、真実は、自ら探し求めなければ見つけられません」皆さんが今、持っている「受け入れる力」に磨きをかけ、精度を高めてほしいと思います。

2つめは、「よい先生を見つける力」です。

皆さんは、本年度、素晴らしい音楽に触れる機会がありました。生野正樹（しょうのまさき）先生のヴィオラの演奏と菅野充子（すがのあつこ）先生のお琴の演奏です。演奏を聴いた瞬間に空気が変わりました。皆さんは本物の音楽に惹きつけられたのです。このことから皆さんは価値あるものを見極める力を持っていることが分かります。校長室での皆さんとのふれあい給食はとても楽しい時間でした。現在の担任である水谷先生と堀先生の良さを皆さんは的確に見抜いていましたね。

「悩みを聞いてくれる」「優しいだけでなく、しっかり教えてくれる」「興味を持てることを用意してくれる」などの皆さんの言葉から担任の先生を信じて日々、前向きに学んでいたことがよく分

かりました。この力は、皆さんが低学年の時の担任、小林先生も桧田先生も認める皆さんの素晴らしい能力です。その能力は、「出席者ではなく参加者として」臨んだ授業態度にも表れていました。人生においてよき師、よき先生に出会うことはとても大切です。皆さんは、読書が好きでした。魂が震えるほどの人物に、本の中ではいとも簡単に会えることができます。書物を通して会える師を含めて、「よい先生を見つける力」を磨いていってほしいと思います。

3つめは、「親切な心」です。

2月6日に、トルコシリア大地震が発生し、5万人を超える人が亡くなりました。代表委員会はすぐに行動し、募金活動を行いました。すると全校児童から2万円を超える義援金が集まりました。皆さんも賛同してくれましたね。皆さんの行動は、地震の被害の大きさから見るととても小さな親切ですが、とても大きな意義があると思います。

「〇〇ちゃん大丈夫?」「うん、ありがとう!」いつも交わされる皆さんのコミュニケーションです。その光景を目の当たりにするたびに私は穏やかな気持ちになりました。「長者の万灯より貧者の一灯」という言葉があります。ちょっとしたことでいいのです。電車で席を譲ってあげるとか、お年寄りの荷物を持ってあげるとか、落ち込んでいる人に「元気を出して!」と心の中で手を合わせるようなことでもいいと思います。「ちりも積もれば山となる」といいますが、そんな小さな親切があふれる世の中になったら素晴らしいと思いませんか?皆さん一人一人が小さな親切の起点・出発点となってくれることを望みます。20分休みや昼休みに下級生から「一緒に遊んで」と腕を引かれてせがまれる皆さんなら、奉仕作業で階段や廊下を隅々まで丁寧に掃き清める皆さんならきっとできると思います。

ある歌が心に浮かびました。甲斐和里子さんが詠んだ歌です。「灯を高くかかげて我が前を行く人のあり小夜中の道」

皆さんが歩いていく未来は、明るく平らな道ばかりではありません。時に真っ暗なガタガタ道も待っているでしょう。

「受け入れる力」「よき先生との出会い」「親切」・・・いずれも真っ暗な闇を照らす希望の灯だと思えるのです。皆さんの良さを磨いてたくましく生き抜いてください。皆さんが切り拓く未来、皆さんが切り拓く新時代はきっと明るく素敵なものになるでしょう。

卒業式式辞より

